

設楽発掘通信

No.50
令和元年
10月号

万瀬遺跡地元の説明会のご案内

今年度の設楽ダム関連の調査も、皆様方のお陰をもちまして、順調に進めることができいております。改めてお礼申し上げますと共に、今後とも埋蔵文化財調査にご理解・ご協力を賜ることができれば、幸いです。

今年度は、上ヲロウ・下ヲロウ遺跡、そして石原遺跡と、調査成果を現地でご紹介してきました。そして今回は万瀬遺跡の調査成果をご案内する順番となります。日程は、下記にもありますように、十一月九日の土曜日です。

万瀬遺跡では、平成二十六年年度に調査が行われ、室町時代頃の作業場が見つかっています。この時、縄文時代後期中葉〜末（今から約三千八百年〜約三千二百年前）頃の土器・石器も見つかりました。

今年度の調査では、三頁でもご紹介している通り、江戸時代後期の建物跡が遺跡の最も高い場所から見つかっています。倉庫やお堂などであった

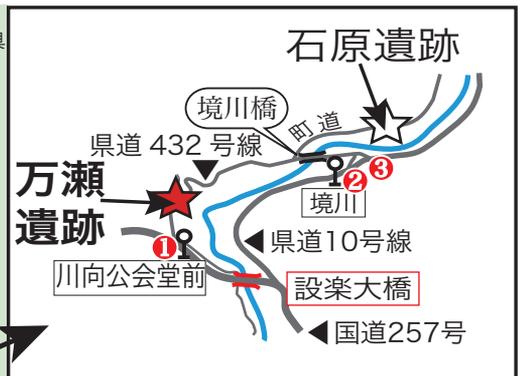


写真1 万瀬遺跡の掘立柱建物跡【江戸時代後期】人の立っている場所が柱跡のあった場所です。
※調査の都合上、説明会当日はこの写真の遺構を直接ご覧頂くことはできません。

と考えられ、当時の歴史をうかがう貴重な調査成果となっています。現在は、斜面下の部分を調査していますが、江戸時代のほか、縄文時代早期前半（今から約一万年前）の遺物も出土しており、縄文時代の遺構の展開も期待される場所です。

晩秋の頃になります。是非、現地まで足をお運び下さい。スタッフ一同、お待ちしております。

（愛知県埋蔵文化財センター
川添和暁）



11月09日（土） 午前11時より開始。

場所：万瀬遺跡（設楽町川向字マンゼ地内）

参加費：無料

内容：出土遺構の見学と遺物の展示。

※お車でご来場の方は、現地に駐車場を用意しております。国道257号の川向公会堂前のバス停①から県道432号小松田口線に入ってください。

※現地は道幅が狭くなっておりますので運転には十分注意し、現地の係員の指示に従っていただくようお願いします。

開催の詳細・お問い合わせ：愛知県埋蔵文化財センター

万瀬遺跡：川添和暁（080-1571-4989）

またはホームページ（<http://www.maibun.com>）をご覧ください。

石原遺跡

石原遺跡は、前号でお伝えした通り、十月二十六日（土）に地元説明会を開催します。そこで、現在調査をしております一九C区の最新の成果をご紹介します。

一九C区は、縄文時代後期から晩期、弥生時代前期の土器が大量に出土していることは、前号でもお伝えしたかと思えます。これらの土器が出土する黒色土は、谷地形（〇一五NR）に捨てられて形成されたもので、この黒色土は地表化していないと考えられています。しかし、掘削するにつれて、複数個体の土器の底部が正位に置かれている場所（写真2の青線）があったり、石が立てて埋まっている石組み列（写真2の緑線）があったりと、どうも黒色土中に生活に利用していたであろう生活面が認められました。つまり、黒色土が埋まりきる前に、生活していた時期があったようです。特に石組みがあった部分は、土坑が掘られていて、その中に石を立て掛けて配石した、配石墓（〇四〇SK）であったと考えられます。この中から骨片が出土しているのも、その証拠です。このことは、谷地形が単に



写真2 谷地形 015NR の黒色土検出状況



写真3 配石墓 040SK 検出状況



写真4 土器底部出土状況



写真5 015NR の出土石器

土器捨て場としての場だけでなく、墓場としても利用されていたことになりました。土器の底部が埋まって出土した場所（写真2の青線）では、土器が使用されていた状態で埋まっていたように出土しています。この土器と配石墓〇四〇SKは同じ時期のものと考えられることから、墓の近くで火を焚く作業場のようなものがあったであろうことがうかがえます。

一方で、現在まで出土した〇一五NRの石器を見てみると、打製石斧や磨製石斧、礫器や磨石、台石などが多いことが分かりました。石鏃のような狩猟具は少量で、ドングリなどを製粉などをするために用いる道具が多く目立ちます。また、煮炊きに使われた土器も大量に出土していることから、ドングリなどの堅果類を加工する場である可能性が高いため、今後の遺構の展開に期待されます。

（愛知県埋蔵文化財センター 田中 良）

万瀬遺跡

万瀬遺跡では一九Ba区の調査が終わり、今年度のこの遺跡では初めての空撮を行いました（写真9）。それからは、一九C区や一九Aa区での調査が始まっています。

まず一九Ba区の調査では、江戸時代の三棟の掘立柱建物跡と二列の柱穴列と見られる遺構が検出されました。建物はそれぞれ、約三・九×四・六m、約四・八×二・一m、約四・七×一・七mで、後ろ二つは規模が近く、互いに重なっているため、片方の建て替えてもう片方が建てられたと考えられます。また、柱穴列は塀と考えられ、それぞれ長さ約九・八m、約十・六mで、同じ高さに沿うように建てられたと見られます。

一九Ba区の遺物は多くが調査区内の西側の平坦部で出土した近世のもので、中世やそれ以前のもの調査区内の東側で少数出土しています。また、調査区南端に存在する谷地形からは縄文時代の遺物が出土しました。

一九Ba区に続いて調査が始まった一九C区や一九Aa区でも早速、遺物が見つかり始めています。一九Ba区と同様、縄文時代から近世までの遺物が出土して



写真6 万瀬遺跡 Ba区出土の砥石 長さ約32cm (近世)



写真7 万瀬遺跡出土遺物 左2点は剥片（縄文時代）
右は銭貨（近世か）



写真8 万瀬遺跡 Aa区作業風景



写真9 万瀬遺跡 19Ba区上空撮写真（上側が西）写真左上が19Ba区、右下が19C区
左下が19Aa区、19Ab区

いますが、縄文時代の中でも古い時期の土器片（写真10）が出土するなど、今後が期待されます。一九C区ではまた、柱穴の跡と見られる遺構も見つかっています。今後の調査によって、一九C区でも建物が見つかるとも思いません。

（愛知県埋蔵文化財センター 河嶋 優輝）



写真10 C区出土の押型文土器（縄文時代）

石原遺跡から出土した土器について

今年度の石原遺跡は、一九C区から見つかった谷地形（〇一五NR）の斜面地で、土器や石器を中心に五×一五mの範囲を覆うように大量の遺物が出土しました。約五百年に渡って捨てられ続けたゴミ捨て場です。ここから出土した遺物のうち、縄文時代晩期後葉（約三千年前）から弥生時代前期（約二千五百年前）の土器を紹介いたします。

北部九州の一部地域で水田稲作が始まった頃、九州から愛知県東部まで西日本一帯に広がった縄文時代晩期後葉の土器を「突帯文土器」と呼んでいます。その後、朝鮮半島南部を起源とする朝鮮系無文土器と突帯文土器が接触して生まれた「遠賀川式土器」は、九州から愛知県西部までの西日本一帯に水田稲作が普及した頃の弥生時代前期の土器です。この遠賀川式土器は、東日本まで稀に持ち込まれ、弥生時代の始まりを示す証拠とすることがあります。石原遺跡では、遠賀川式土器は今のところ出土していません。一方、愛知県東部では、縄文時代の伝統を受け継いだ土器をもとに、新たな弥生土器が創出されます。愛知県東部を中心に



写真 11 015NR 掘削風景

に成立した弥生時代前期の土器は「条痕文土器」と呼ばれ、この地域を発信源として北陸、関東まで広がりました。

石原遺跡ではこれらの突帯文土器と条痕文土器を合わせると出土した土器の半分くらいを占めています。

突帯文土器は、口縁部近くにかまぼこ状の細い帯を一周させ、貝殻の縁などを利用してその上に文様を刻み込む特徴があります。

条痕文土器は、貝殻の縁を利用して粗く器面全体に文様などを描

く特徴があります。

一見、同じように見える突帯文土器と条痕文土器、まだまだ様々な特徴の違いがあります。

今回は入門編ということで、2つの特徴をまず見比べてください。

（愛知県埋蔵文化財センター 永井宏幸ながいひろゆき）



写真 12 突帯文土器



写真 13 条痕文土器

設楽発掘通信

No.50

令和元年10月号

編集・発行

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24

電話 (0567) 67-4161【管理課】4163【調査課】

ホームページ <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaichi>

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun

*次号は12月の発行になります

印刷・協力

株式会社イビソク